

編集 後記

本号には、特別論文1篇、原著論文3篇、資料1篇を掲載しております。いずれも、我国内のみならず国際的な公衆衛生の課題を記述、検証をしている論文です。読者の皆様の公衆衛生活動を支えるエビデンスとして活用いただくとともに、現場で抱える課題を検証をする方法としてご参考にしていただければと存じます。

特別論文は、モニタリングレポート委員会から外国系高齢者の介護サービスへのアクセスに関する報告です。地域では、高齢化とともに、国際化への対応も喫緊の課題となっています。その問題点を記述し、今後のさらなる検証を促す論文と位置づけられます。

原著論文では、がんピアサポーターの支援のありかた、挨拶行動と地域愛着、医療機関で用いる患者の生活困窮に関する評価尺度が検討されています。ピアサポーターは、医療の現場では、患者の当事者性に配慮して導入も進められているところであり、本論文ではピアサポーター自身が配慮している要素が質的に抽出されています。子どもの挨拶行動と地域愛着と援助行動の関係は、直接の触れ合いが減る時代に、挨拶、地域愛着、援助行動はどのように変化するか興味深いテーマです。また、生活困窮に対しては、臨床的配慮のみならず社会的処方も期待されるところです。これらに関する尺度開発はそのあり方を検討する第1歩となる可能性があり、今後の発展が期待されます。いずれの課題も、ウィズコロナ、ポストコロナ時代にはこれまでとは異なった対応法が問われる可能性があります。人と人との交流のありかたや地域への働きかけかたを検討することは、今後さらに進むであろうサービスのデジタル化において、デジタルな支援では置き換えられないことを抽出するという意味でも興味深い知見かと思えます。

資料として国際保健人材のキャリアパス形成に関する調査報告が掲載されています。日本人の国際的組織での活躍は一層期待されているところでありますが、専門性をもった人材の活躍を後押しする組織的支援を進める方向性を示されています。

このように本誌は国内外の公衆衛生の現場の疑問が科学的に検証される場となっています。みなさまからの様々な視点、アプローチでのますますの投稿をお待ちしております。
(鈴木友理子)

次号予告 (第67巻・第8号)

特別論文

わが国における健康危機管理の実務の現状と課題：公衆衛生モニタリング・レポート委員会活動報告……………古屋好美，他

原著

レセプト情報・特定健診等情報データベース(NDB)を活用した糖尿病治療薬等からみた医療費の都道府県別地域差分析……………黒崎宏貴，他
都市住民における非特異的ストレス指標 K6 の悪化予測因子の探索：神戸研究……………田谷 元，他

公衆衛生活動報告

「コミュニティアズパートナー」モデルを用いた住民主体のフレイル予防活動支援プログラムの実践と評価……………西田和正，他

資料

阪神・淡路大震災におけるアスベストによる環境汚染の検証と健康リスクについての考察……………上田進久